

アビスパ福岡株式会社について

令和6年6月

# 目 次

I	法人の概要	・ ・ ・ ・ 1
	1 法人の概要	
	2 組織	
II	事業報告	・ ・ ・ ・ 3
III	決 算	・ ・ ・ ・ 4
	1 損益計算書	
	2 株主資本等変動計算書	
	3 貸借対照表	
IV	事業計画（方針）	・ ・ ・ ・ 7

## I 法人の概要

### 1 法人の概要

(1) 法人名 アビスパ福岡株式会社

(2) 主要な事業内容

サッカーの興行、サッカースクールの運営、サッカー指導者の育成及び  
プロサッカーチームに関する各種オリジナルグッズの販売

(3) 設 立 平成6年9月29日

(4) 資本金 383,296千円 (令和6年1月31日現在)

(5) 本市出資の目的

Jリーグの地域に根ざしたホームタウン制により、本市のスポーツ文化  
の振興、青少年の育成及び地域経済の活性化を目的として出資

### 2 組織

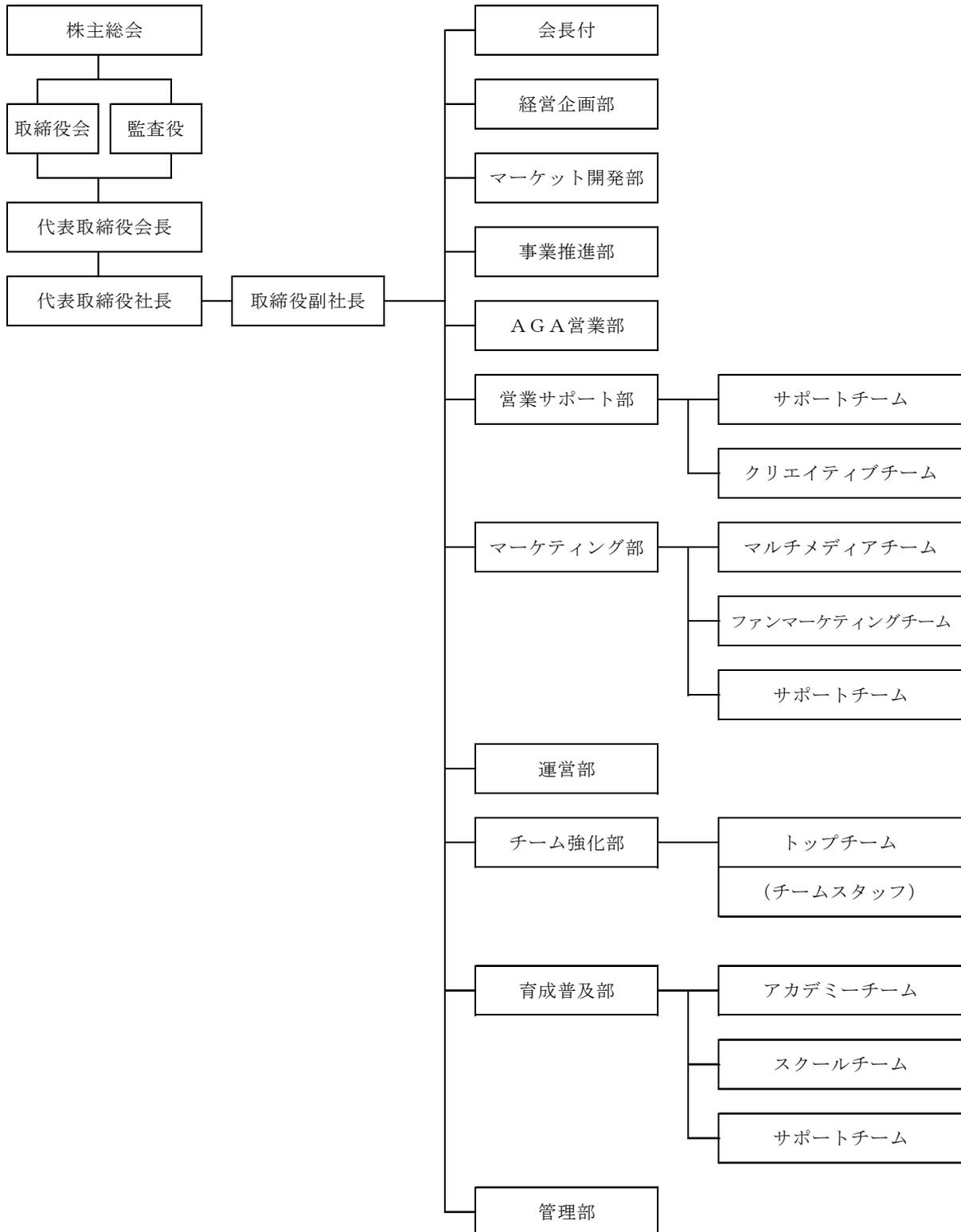
(1) 役員名簿

(令和6年4月25日現在)

役 職	氏 名	備 考
代表取締役会長	川 森 敬 史	APAMAN 株式会社 常務取締役
代表取締役社長	結 城 耕 造	株式会社システムソフト 取締役 兼 SS Technologies 株式会社 代表取締役社長
取締役副社長	立 石 敬 之	シント＝トロイデン VV CEO
取 締 役	吉 尾 春 樹	株式会社システムソフト 代表取締役社長
取 締 役	廣 塚 浩 一 郎	株式会社エイジェックグループ 地域価値創造本部 執行役員
取 締 役	関 敬 介	コカ・コーラボトラーズジャパン株式会社 ベンディング事業本部 九州地区統括部長
取 締 役	三 宅 宏 治	福岡市 市民局理事
取 締 役	内 村 芳 郎	九州電力株式会社 常務執行役員 ビジネスソリューション統括本部地域共生本部長
取 締 役	大 久 保 昭 彦	株式会社西日本新聞社 取締役 社長室長
取 締 役	恒 松 孝 二	株式会社九電工 理事 人事労務部九電工アカデミー学長
取 締 役	川 原 武 浩	株式会社ふくや 代表取締役社長
取 締 役	村 中 悠 介	合同会社 DMM.com COO
取 締 役	渡 邊 誠	株式会社プロスタッフ 代表取締役
監 査 役	土 田 裕 章	株式会社福岡銀行 総務部長
監 査 役	滝 本 英 明	株式会社西日本シティ銀行 総務部長

(2) 組織図

(令和6年4月25日現在)



## Ⅱ 事業報告（令和5年2月1日から令和6年1月31日まで）

2023シーズン、地元福岡の経済界・自治体、後援会及びアビスパ・グローバル・アソシエイツ(A G A)よりクラブ経営全般に及ぶ継続的な支援があり、今期のスポンサー社数は前期の786社から67社増加し853社となった。

入場者数については、新型コロナウイルス感染症の影響による入場制限もなくなり、1試合当たりの平均入場者数が前期の6,194人から今期は8,722人となり、2,528人増加した。また、年間入場者数は前期の16万3千人から、今期は19万2千人に増加した。

グッズ収入については、オーセンティックユニフォーム販売や勝利記念グッズ等の販売を強化し、前期1億7千4百万円から今期2億6千5百万円となり、9千1百万円増加した。

チームについては、長谷部監督体制のもとJ1リーグ戦8位以上、カップ戦ベスト8以上を目標とし、3年目のJ1のシーズンに臨んだ。リーグ戦は安定した戦いぶりでクラブ最高順位の7位でシーズンを終えるとともに、ルヴァンカップでは優勝し、念願であったクラブ史上初のJリーグタイトルを獲得するなど、シーズン開幕前に掲げた目標をすべて達成した。

育成普及部門のアカデミーについては、選手の健全な育成と安全を念頭に置き、日々トレーニングを重ね、年代別の日本代表及び候補に数名が選出されるシーズンであったが、U-18のプレミアリーグ昇格、各年代の大会優勝という目標を達成することはできなかった。スクールについては、博多学園校の運営が終了となった影響等により、前期のスクール生人数1,385人から今期1,291人に減少したが、チアスクールを含め23校において、地域に密着した事業運営に取り組んだ。

ホームタウン推進活動については、年間延べ2万1千人を超える方々に参加いただいております、コーチ派遣型の「アビススクール」のほか、ブラインドサッカー啓発活動や福岡都市圏との協働による健康教室等に取り組むとともに、フレンドリータウンとして17の自治体と協定を締結する等、当クラブの経営理念である「子どもたちに夢と感動を」「地域に誇りと活力を」の実践を続けている。

こうした活動により、今期の売上高は、広告収入9億4千6百万円（対前期比24%減）、入場料収入6億3千5百万円（対前期比32%増）、大会賞金等を含むその他の収入を加え、合計28億7千4百万円（対前期比2%増）となった。営業費用は、29億6千6百万円（対前期比5%増）となり、営業損失は9千2百万円、経常損失は8千9百万円、当期純損失は9千万円となった。

来期はサービス品質の向上と社会連携活動を軸に、広告収入、入場料収入などの増収に向けた取組みを継続し、クラブの経営安定化を図るとともに、J1中位を目標にしたチームづくりに取り組む。また、U-12からトップチームに至るまで「感動と勝ちにこだわる」A v i s p a S t y l eを引き続き構築していく。

### Ⅲ 決算

#### 1 損益計算書（令和5年2月1日から令和6年1月31日まで）

（単位 千円）

科 目	金	額
売 上 高		2,874,334
売 上 原 価		2,671,162
売 上 総 利 益		203,172
販売費及び一般管理費		295,338
営業損失（△）		△92,166
営業外収益		
受 取 利 息	1	
受 取 家 賃	784	
為 替 差 益	5,257	
そ の 他	111	6,154
営業外費用		
支 払 利 息	3,316	
そ の 他	214	3,531
経常損失（△）		△89,542
特別利益		
助 成 金 収 入	866	866
特別損失		
新 型 コ ロ ナ 関 連 損 失	870	870
税引前当期損失（△）		△89,546
法人税、住民税及び事業税		520
当期純損失（△）		△90,067

※記載金額が千円未満非表示のため合計額が合わない場合がある。

## 2 株主資本等変動計算書（令和5年2月1日から令和6年1月31日まで）

（単位 千円）

	株 主 資 本				株主資本合計	純資産合計
	資本金	資本剰余金		利益剰余金		
		資本準備金	その他 資本剰余金	その他利益剰余金 繰越利益剰余金		
前期末残高	371,552	280,562	161,760	△1,147,245	△333,370	△333,370
当期変動額						
増資	11,744	11,744			23,488	23,488
当期純損失（△）				△90,067	△90,067	△90,067
当期変動額合計	11,744	11,744		△90,067	△66,579	△66,579
当期末残高	383,296	292,306	161,760	△1,237,312	△399,949	△399,949

※記載金額が千円未満非表示のため合計額が合わない場合がある。

### 3 貸借対照表（令和6年1月31日現在）

（単位 千円）

科 目	金 額	科 目	金 額
<b>(資産の部)</b>		<b>(負債の部)</b>	
<b>流動資産</b>	<b>459,501</b>	<b>流動負債</b>	<b>1,010,782</b>
現金預金	215,911	短期借入金	10,458
売掛金	151,245	一年内返済長期借入金	89,916
商品	14,401	一年以内償還社債	20,000
仕掛品	19,755	リース債務	2,844
前払費用	46,446	未払金	146,119
貸倒引当金	△7,998	未払法人税等	2,177
その他	19,739	預り金	51,295
		前受収益	687,632
		その他	338
<b>固定資産</b>	<b>319,998</b>	<b>固定負債</b>	<b>168,666</b>
<b>有形固定資産</b>	<b>203,977</b>	長期借入金	160,744
建物	195,635	リース債務	3,822
建物附属設備	90,868	その他	4,100
構築物	35,877		
工具器具備品	82,018	<b>負債合計</b>	<b>1,179,448</b>
土地	100,000		
リース資産	14,161	<b>(純資産の部)</b>	
建設仮勘定	300	<b>株主資本</b>	<b>△399,949</b>
減価償却累計額	△314,884	資本金	383,296
<b>投資その他の資産</b>	<b>116,020</b>	資本剰余金	
出資金	10	資本準備金	292,306
長期前払費用	115,730	その他資本剰余金	161,760
その他	280	<b>利益剰余金</b>	
		その他利益剰余金	
		繰越利益剰余金	△1,237,312
		<b>純資産合計</b>	<b>△399,949</b>
<b>資産合計</b>	<b>779,499</b>	<b>負債及び純資産合計</b>	<b>779,499</b>

※記載金額が千円未満非表示のため合計額が合わない場合がある。

#### IV 事業計画（方針）

アビスパ福岡は、「子どもたちに夢と感動を」「地域に誇りと活力を」を基本理念とし、ホームタウン活動などを通じて、地域に根差した市民クラブを目指している。

今期は、クラブの経営の安定と、チームのさらなる上位を目指した体制づくりに加え、アカデミーサポート体制の強化及びスクール育成指導の質的向上を図るなど、市民クラブとして地域への奉仕と満足してもらえるサービスの提供にさらに努めていく。

また、クラブへ寄せられる様々な提案等を踏まえながら、来場する全ての方が快適に過ごせるスタジアム運営や、来場者数の増加に向けた各種施策に取り組んでいく。

今後も、ホームタウン活動を継続し、多くの方々と関わりながら、アビスパ福岡が真の市民クラブとして、多くの市民に愛され、地域の誇りとなるよう、活動していく。